

討論メモ 7月 「22世紀の資本主義」

令和7年7月15日

森田晃司

1. 急逝された児玉博嗣さんに、経済学者の成田悠輔氏の頭書名の著書を参考にして、
今年の3月に、
資本主義とは何か、
市場とは何か、
株とは何か、
を踏まえつつ、資本主義の未来について課題を提起いただきました。
7月のサロン21では、児玉さんを追悼しつつ、この提議を思い起こしながらさらに
認識を深めてみました。
2. 出席者四名にて意見交換し、下記のごとき意見が出されました。
 - ・世界の現状は、まるでオーウェルの著書「1984年」に向かっているかのようだ。
 - ・中国は、オーウェルの予言通りの国になりそうだ。
 - ・完全な監視社会になると、中国でも富裕層が黙っていないのではないか。
 - ・金本位から、米ドルに基軸通貨が変わったが、米ドルの信認が問われている。貨幣の信用はどう変わっていくのか。
 - ・日本では、まだ現金が主流だが、各国ではデジタルマネーが大半になっている。
 - ・ビットコインなども存在感を高めているようだ。
 - ・各国の中央銀行もデジタルマネーの採用の検討を始めている。
 - ・現金が使えなくなると、金の使い道のすべてを監視されることになる。重大なプライバシーの侵害だ。
 - ・今後の貨幣はどうあるべきか、国民の納得する議論を行うべきだ。
 - ・近年、急騰している株も実態を反映しているとは思えない。
 - ・急騰したテスラは、今、急落している。
 - ・ファッションのLVMHはトヨタよりも時価総額が上回っている。
 - ・都心ではテスラのEVやスーパーカーが沢山走っている。日本も格差が広がっている。
 - ・実質賃金は30年上がっていないが、所得の中央値が50万円以上も下がって、格差が広がっている証だ。
 - ・産油国や北欧でベーシックインカム的な支給が行われているようだが、今後議論

を呼びそうだ。

- ・サウジアラビヤはムハンマド皇太子をリーダーに、油がなくても生き残れる産業力、技術力のある国を目指して頑張っている。
- ・中東の湾岸諸国もそれぞれ夢を持って頑張っている。
- ・日本も、信頼できるリーダーのもと、国民が一致して誇りある国の復活を夢見る時代を取り戻す必要がある。

以上